

偕楽園公園を日本一の都市公園にしよう！

—総会で活動の刷新と役員改選を決定—



第11号
偕楽園公園を
愛する市民の会

新たな活動のスタートを

「湊正雄新会長あいさつ」

当会は平成十九年に発足し、翌二十年度から「平成梅林整備促進事業」を始め、会員は募金活動や苗畑の世話など熱心に行い、成長を楽しみにしていましたが、P.V.の感染により、和田前会長の総会あいさつにありま

ように事業は終息することになりました。



で、改めて当会発足の原点に返って「偕楽園公園をもっと魅力ある都市公園にしよう」という新たな事業活動を本年度からスタートしたいと思います。

偕楽園・弘道館は水戸の観光スポットでありながら十分にその魅力を発信していないのが現状です。偕楽園には梅まつりにしか人が来ない。四季を通じた偕楽園の魅力を水戸市民が知らない現状をどうするかが大きな課題かと思っています。

また、駅からも近く、大きな自然の中にある千波湖とその周辺の公園の環境の整備が必要かと思われま

す。千波湖の環境改善は偕楽園の魅力向上にもつながっており、他の団体とも交流して事業を進めたいと思います。事業を進めるにあたって、会員が一人でも多く熱意を持って会の活動に参加できるように、委員会編成を新たにしました。全員がどこかの

委員会に入って、楽しんだり、話し合ったり、学んだりできるようにしたいのです。

平成二十六年通常総会

平成二十六年四月二十四日茨城県生涯学習センター大講座室で通常総会が開かれました。今年の総会は、偕楽園と弘道館の復興事業の完了、P.V.による平成梅林事業の休止という重大な変化を踏まえ、大きな転機を迎えることとなりました。

八年間をふりかえって「和田祐之介会長」

平成梅林は、斉昭公にならって梅の穂を集めて接ぎ木して苗木を育てるという方法で、皆さんからの募金で最終的には四〇四品種約二〇〇〇本になりました。

しかし、その後P.V.が発生して、わが苗畑にも感染が進んできました。「偕楽園の魅力をも高めるために、偕楽園を日本一の品種の梅の公園にしよう」ということで始まったのでありますが、それが本園の梅に感染してしま

いますと本末転倒になるということとその年の総会で全部切ろうという決議をし、その後県とも相談して対応してきましたが、最終的には昨年末に全部の苗木を伐採焼却処分致しました。

会は偕楽園を舞台にいろいろな行事をしてきました。平成二十三年には「偕楽園なんでも百科」を発行して次代を担う子どもたち

に偕楽園の魅力を伝えようと小学校に配布して活用を図っています。また、平成二十一年には弘道館の魅力を高めるために、安岡定子先生に指導をお願いして「弘道館・

親子で楽しむ論語塾」を開始しました。

しかし八年たちまして、新たな事業をする必要がある。私も

八年間会長を仰せつかって、この辺が潮時かなという感じを持っております。

皆さんと何か事業をやりますと成功しちゃうんですね。平成梅林でも瞬間ではありますが、四〇〇品種を超えて日本一になりました。それから地震が起こって大きな被害を受けました。何とかしようと思

った。何とかしようと思

原点に返って多くの会員の参加を

総会では前年度の活動報告、決算報告を承認した後、平成二十六年事業計画案が提案されました。案では「偕楽園公園をもっと魅力ある都市公園にしよう」という原点に返って「会員が一人でも多く熱意を持って参加できる活動をスタートさせたい」と述べています。また、「委員会編成を新たに

にして、できるだけ多くの会員に委員会に入ってもらって活動したい」として、次の五つの委員会が提案されました。活動内容は4面に記載します。

役員の改選と事務所の移転

新しい活動を担う役員として会長に湊正雄、副会長に大槻功、仲田光子、根岸孝雄、浅川きよ、小貫正雄、田嶋啓三の六名と理事八名、監事二名が選出され、交代された前役員が顧問に就任。事務所は新会長の自宅に変更することが承認されました。



和田祐之介会長

偕楽園公園の将来像を探求する活動

総会記念シンポジウム「偕楽園公園をさらに充実した都市公園にしよう」

総会終了後、「偕楽園公園をさらに充実した都市公園にしよう」と題したシンポジウムを開催しました。最初に、茨城大学名誉教授 茨城県景観審議会委員 小柳武和氏に基調講演をしていただきました。

次いで四名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。

基調講演



武和氏 基調講演は「景観・空間資源を活かして小柳源を活性化」

愛される都市公園」と題して、多くの調査研究を踏まえ偕楽園の利用の実態に則した偕楽園公園活用の提言・アイデアを紹介された。

話題1「偕楽園公園の観光資源としての意義と課題（景観・空間創成の観点から）」では、観光の観点から偕楽園公園の知名度が低いこと、その分伸び代が大きいと指摘された。

話題2「偕楽園公園の景観・空間特性」では、偕楽園公園は「水都」の象徴（顔）となる原風景を有している」と指摘。景観・空間は「雄大で開放的な眺望景観を体験できる、都市と自然の調和景観を提供している、歴史的・文化的景観を体験できる、徒歩による回遊で多様な景観を体験できる、四季折々、五感を楽し

ませる景観・環境資源がある」の五つの特性を持つとまとめられた。

話題3「景観・空間創成に向けての提言」は、「①原風景の保全と眺望景観の活用、②偕楽園公園と市街地の回遊性の向上」の二点である。

総括の「偕楽園公園の景観・空間創成に向けての課題」では「水辺と台地地形の景観的特性を活かす（ワイジビリティの形成）」と「景観資源の回遊性と町に誘う仕掛けをつくる（アクセシビリティの形成）」の二課題を指摘された。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、水戸青年会議所理事長大関竜太郎氏、水戸商工会議所青年部副会長打越高一氏、水戸コミュニティ放送（FMばるるん）代表取締役小川啓子氏、本会前会長和田祐之介氏から、偕楽園公園の今後の活用と水戸市の観光についての提案、腹案が述べられた。

大関氏は水戸青年会議所が県外・市外からの宿泊客を増やそうと「夜梅祭」を九回行ったが、この考えは勘違いであった。ニューヨークのセントラルパークは年間二千万人の利用者がいるが、そのうち千六百万人は市民の日常的な利用者であり、そのにぎわいが観光資源になっている。偕楽園も市民の会のような市民団体がいろいろな場所で活動し多くの市民が日常親し



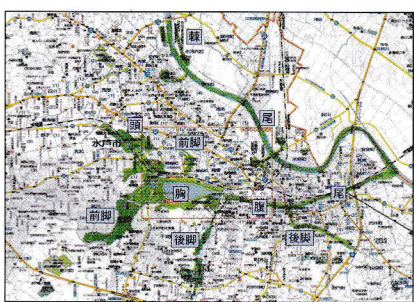
パネリスト

むようになることが大事だ。それが相乗して観光資源になる。青年会議所も今後十年の指針としてそういうプラットフォームを作る活動を進めたいと述べられた。

打越氏は三年前に始めた「水戸マラソン」が年々発展していることを紹介され、この経験から、千波湖および偕楽園公園に「市民ランナーのための更衣室・シャワー室の設置、年間を通しての無料駐車場の設置、飲食や室内イベントのためのスペース増設」などの改善策を提案された。

小川氏は「自分が楽しいと思わなければ観光客が楽しいはずがない。偕楽園や茨城県にはいいところすこいところがいっぱいある。そこで自分が楽しいこと、やりたいことをやって、おいしいものを食べる。ちよつとでもいいと思ったらそれを発信する。自分たちがいいと思っていないのに情報発信できるはずがない」と、長年の経験に裏付けられた提言をされた。

和田前会長は水戸市の地図を示して、水と緑をたどると怪獣に見えるとしてこれを「怪獣みとくん」と名付け、神話伝説の町水戸の観光のアイデアを提示された。そして



伝説の怪獣みとくん

町水戸の観光のアイデアを提示された。そして

今一番の問題は千波湖の汚染であるとして、千波湖の浄化に取り組むことをやりたい。みんなで取り組みができるはずと述べられた。

魅力発見ウォーキング

平成二十六年六月十七日、千波湖浄化と偕楽園公園の魅力向上をめざすには会員がまず千波湖周辺を歩いて現状を観察しようと呼びかけました。

偕楽園下駐車場に集まり、偕楽園東門から偕楽橋を経て田鶴鳴橋で桜川を渡り桜川駐車場へ。

駐車場の南側には巨大な堤が築かれています。そこからは南に広大な草原、西に桜川の土手が、台地沿いに旧桜川が流れているのが見えます。南の草原は蘆葦や雑草が生い茂り、桜川が増水した時の遊水地で、上流の滝下橋北の正面越流堤から増水を受け入れて一時貯水し洪水を防止します。偕楽園公園計画では桜川緑地として整備されることになっています。ここは遠望しただけで、桜川沿いに千波湖方面へ。

途中の平成梅林元苗畑の脇には千波湖浄化用水取水口があります。ラバーダムで旧桜川を堰き止めてポンプで月池を経て千波湖に送水されます。



最後に千波湖南岸の台地崖からの湧水を観察。水量は多くないとはいえ、自然の営みが残っていることに感動しました。

平成二十五年度の活動

弘道館・親と子の論語塾

平成二十五年度は弘道館が復旧工事中だったので、茨城県三の丸庁舎三階の茨城県生涯学習センター大講堂で開催しました。日本ユネスコ協会の「第四回プロジェクト未来遺産」に登録されたこともあって、来賓や見学者が多いのが特徴でした。

塾の日が第一土曜日なので、祝日であったり、学校行事と重なったりすることもあり、受講生が六〇名を越える時も、三〇名



安岡先生の講話

位で大半が小学校入学前の子どもの時もありました。安岡先生は子どもの様子を見て、大勢の子どもが参加できるよう工夫されます。

教室は、本会副会長長久野先生の始めの言葉で始まります。季節の草花など自然の話題を取り上げて話されます。次に、子どもたちが前に出て「起立」「氣を付け」「礼」「着席」の号令で教室が始まります。



カード選び

安岡先生の季節や言葉にちなんだ話があり、そのあと姿勢を正して論語の二〇章くらいを先生の首唱に続いて素読します。そのうちのいくつかの章について先生が解説されます。これは小さい子どもにはやや退屈そう。

そのあとが子どもたちの時間です。論語の一章を一枚のカードにしたものから読みたい章を子どもが選びます。テキストから選ぶ子もいます。それから前に出て、一人ずつ素読。暗唱できる子、長い章をすら



順に一人ずつ素読

すら素読できる子がいる一方、一字ずつたどたどしく読む子や、兄や姉と一緒に読む子、色々ですが、皆拍手で褒めて励まします。

最後に子どもが前に出て号令で終わります。和やかで充実した一時間の教室です。

弘道館災害復旧記念式典

平成二十六年三月二十七日、東日本大震災で被害を受けた正庁・至善堂（重要文化財）の建物の修復工事が完成したので、弘道館災害復旧記念式典が挙行されました。

復旧なった正庁・至善堂は、震災前とほとんど見た目が変わらない見事な修復でした。壁や壁紙には従来と同一の資材や工法で修理・補修が行われ、随所に施されている耐震補強も、目に付きにくいところ、見えないところに施されています。文化財を受け継ぐのに尽くされた多くの人々の努力に頭が下がりました。

式典終了後、記念事業として「弘道館・親と子の論語塾」の特別授業が行われました。会がこれまでの受講生に急ぎよ呼びかけたところ、五〇人を越える人々が集ってくれま

した。

式典の終わった正庁の間の敷物の上に書見台を並べ、前に子どもたち、続いて親子連れ、さらに後ろと周りに大人たち。三年ぶりの弘道館での教室は感慨深いものがありました。

季節の講話は三月の別称の「弥生」。「弥（いよいよ）生まれる」月と紹介されます。



弘道館正庁の間に

次は「学びて思わざれば、則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」の章句解説。バランスをとることをヤジロベエにたとえて説明された

のが、判りやすいものでした。その後は、いつものように子どもたちの素読が行われ、なごやかに終わりました。

平成梅林のその後

平成梅林の苗畑は平成二十四年度中にB畑とD畑の苗木伐採のうえ、A畑とE畑の苗木共に県の管理に移りました。

しかし、平成二十五年五月の調査でE畑の苗木一本の感染が発見され、これは苗畑内での感染と思われる。その後念のため借楽園本園および拡張部のすべての梅樹を調査し、感染がないことを確認しました。

しかしこれ以上の感染の拡大を防ぐために、E畑だけでなくA畑の苗木も全て伐採処分することになり、同年十一月、すべての苗木を伐採・抜根し焼却処分しました。

借楽園なんでも百科展示会とワークショップ

平成二十五年八月二十日から二週間、借楽園公園センターで「借楽園の魅力再発見」のサブテーマで開催しました。

夏休み終了直前ということで親子工作教室、塗り絵など夏休みの課題の解決にも役立つようなワークショップ、スタンプラリー、みとちゃんと黄門さまご一行を招いての触れ合いと記念写真など、多彩な行事を実施し、参加者には好評でした。スタンプラリーとみとちゃんの行事には茨城大学の学生も参加してくれました。

また、水戸観光協会の協力で「拙誠会」の各流派のみなさんで「茶の湯の体験教室」も開かれました。



親子で塗り絵

展示とワークショップの参加者は四〇〇人余と前年を下回り、単独での開催に、限界を感じました。

ウォーキング・借楽園を歩いて知る

平成二十五年九月八日「借楽園スズムシウォーク」、十二月一日「水戸の晩秋をめぐるウォーク」、二十六年一月六日「水戸初詣ウォーク」、二月二日・三月二日「借楽園を知るウォーク」、三月十五日・十六日「第三回水戸観梅デーウォーク」。これらは水戸歩く会（川上清会長・本会副会長）との共催でしたが、本会からの参加が少数にとどまったのが残念です。

平成二十五年年度の活動

大名庭園サミット会津大会

平成二十五年十月六日・七日、大名庭園サミット第八回会津大会が福島県会津若松市の御薬園で「歴史的資産としての大名庭園の継承」をテーマに開催されました。当会から二〇名が参加しましたが、「八重の桜」の放映中であり、行く先々の賑わいは大変なものでした。

六日に講演会とシンポジウム、鶴ヶ城と御薬園見学、懇親会に参加し、七日には歴代藩主の廟所（三代・九代の各代に亀石の碑石、位階の表石、霊をまつる鎮石が丘の上下に三段にわたって配置される壮大なもの）を参拝した後、白虎隊の最期の地飯盛山を見学、墓に参りました。ガイドの方の話から、幕末会津藩の歴史への無念の思いと、徳川慶喜公に見捨てられたという水戸藩に対する複雑な感情がうかがわれました。

平成二十六年度委員会の活動

魅力向上委員会

活動…偕楽園公園・弘道館の文化遺産としての魅力向上の提言と「偕楽園公園をさらに充実した都市公園にしよう」具体化のための市民運動の展開

水戸の二大史跡である弘道館、偕楽園では、恒例の行事の他、土日祝日は、観光ボランティアが常駐し案内活動をしています。しかしこの歴史跡だけでは観光客を大幅に増加することは困難と思われます。

一方偕楽園公園は世界第二位の広さをもつ都市公園です。その魅力向上のため県と市が整備を進めていますが地元でさえその認識が低いのが現状です。

七月二十三日に常磐神社会議室を借りて「偕楽園公園の魅力語る会」を主催しました。茨城県公園緑地課と水戸市公園緑地課から、「偕楽園



偕楽園公園の魅力語る会の様子

の魅力向上に係る取り組み状況について」の報告を聞き、参加者から活発な意見が出されました。当公園は広大な緑、水そして歴史に恵まれています。当委員会は今後公園としての存在、利用効用を高めるために活動します。

論語委員会

活動…「弘道館・親と子の論語塾」の運営と関連する事業の企画

四月に第一回を開きましたが、弘道館が復旧直後で行事が輻輳していたので茨城県水戸生涯学習センター大講座室（茨城県三の丸庁舎三階）で行いました。

五月から十月までは弘道館の至善堂で開いてきました。昼の間で書見台を前に親子一緒に読み、子どもが前で素読するのを励ますという本来の姿は気持ち引き締まります。

十一月からは茨城県水戸生涯学習センターで開催します。多数の参加を期待します。

・教室 十時三十分～十一時三十分
・講師 安岡定子氏
・受講料 一回一家族 一〇〇〇円
・今後の開講日 十二月六日、一月四日、二月七日、三月七日
・申込方法…本会事務所に資料をご請求下さい。

研修委員会

活動…偕楽園公園の歴史と自然についての学習を継続／広報誌の発行／ホームページの改善／「偕楽園なんでも百科」の改訂と増刷・普及

十月二十日に第一回委員会を開き、会報の発行、ホームページの刷新を決定し、「偕楽園なんでも百科」の改訂と増刷に取り組むことを確認しました。

研修委員会の仕事は、会の活動について会員に広報すること、「偕楽園」の魅力について会員や市民への情報発信を行うことと考えられます。

この目的に沿った事業として会員や市民が偕楽園公園についての学習会などを企画立案することもやりたいので、会員の皆様のご希望を伺いたいと思います。

環境委員会

活動…偕楽園、千波湖とその周辺の環境整備の具体化への提言

課題に取り組むヒントを得るため、六月十七日に「偕楽園公園&千波湖・魅力発見ウォーキング」を企画、実施しました（二面参照）。

また、当会は偕楽園公園花パートナーとして田鶴鳴梅林内に花壇一箇所を受け持ち、春と秋の二回花を咲かせています。



除草作業

秋のキバナコスモスは、六月二十四日に種蒔き、七月二十三日に除草、十月六日に抜根作業を行いました。来春のカラシ菜に向けて、十月二十日に種蒔きを行いました。十一月・十二月に除草作業を予定しています。

交流委員会

活動…大名庭園サミットへの参加

平成十八年当会を含む大名庭園を舞台に活動する民間五団体が、大名庭園民間交流協議会を結成し、相互に活動を交流しより高めるため、大名庭園サミットを開催してきました。当委員会は、大名庭園民間交流協議会の窓口の役割を継承するほか、本会と他団体との交流を支援するために活動します。

今年度は、十一月に福井市養浩館庭園で開催される第九回大名庭園サミット越前福井大会に参加します。

偕楽園公園を愛する市民の会

事務所…〒310-0053 水戸市吉沢町2-22
Tel・Fax…029-247-0438
平会…http://www.kairaku-en.jp/